

《科目区分》 他学部他学科科目等

授業科目名（講義コード：2GL1405-1）	ナンバリングコード			
	水準	分野	ディプロマ・ポリシー（DP）	提供部局
学校教育における今日的課題～道徳教育における道徳性の発達と価値葛藤～ Contemporary Issues in School Education—The Development of Morality and Value Conflicts in Moral Education—	M2	TPF	(DP) ABC	L
	対象学生 2	特定プログラムとの対応 O	授業形態 Lg	単位数 1
時間割	前期集中 その他 集中			
対象年次及び学年	1年次			
担当教員	植田 和也,金綱 知征,清水 顕人			
関連授業科目				
履修推奨科目				
学習時間	講義 90分×8回+自学自習（準備学修 15時間+事後学習 15時間）			
《授業の概要》	<p>学校教育の今日的課題として、教科化になった道徳教育に関する多様な問題がある。例えば、学校教育活動全体で行う道徳教育への理解や具体的な指導力向上につながる理論的な理解の深まり、魅力ある教材開発等も重要な課題の一つである。</p> <p>本講義は、生徒指導・道徳教育の視点から、道徳性の発達や価値葛藤、教材開発等に係る知見を提案し、実践的な教育課題の解決に向けた提案を行うものである。</p> <p>* 本科目は、単位互換協定により、鳴門教育大学及び愛媛大学への提供科目である。本学教育学研究科の学生は履修できない。</p>			
《授業の目的》	道徳教育に関して、道徳科を要として道徳教育の推進が求められていることについて理解するとともに、道徳教育における道徳性の発達、認知発達論について理解する。加えて具体的な指導法について理解する。			
《到達目標》	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科を要として道徳教育の推進が求められていることについて理解する。（DPのA「専門知識・理解」に対応） ・道徳教育における道徳性の発達、認知発達論について理解するとともに、葛藤教材の内容を自分事として捉えて、自らの価値観を他者と話し合いながら見つめることができる。（DPのA「専門知識・理解」、C「倫理観・社会的責任」に対応） ・道徳科の具体的な指導法の一つである道徳的価値葛藤授業（モラルジレンマ）等について理解するとともに、教材に応じたよりよい指導法を他者と相談しながら追究することができる。（DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応） 			
《成績評価の方法》	<p>レポート課題及び授業内討議・発表によって評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働して、実践事例を分析し、道徳性の発達やコールバーグ理論、モラルジレンマについての認識を深めることができたか（40%） ・価値葛藤や道徳性の発達の理解に基づき、よりよい授業づくりの基礎を理解することができたか（40%） ・ミニレポート・グループ演習での作業で、具体的な自分なりの考えをもつことができたか（20%） 			
《成績評価の基準》	<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可（60点未満）到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>			
《授業計画並びに授業及び学習の方法》	<p>9月14日</p> <p>第1回：オリエンテーション 学習指導要領での道徳教育と道徳性の発達について 道徳教育の要である道徳科における多様な指導法（問題解決的な学習、価値葛藤等）（植田）</p> <p>第2回：道徳教育における道徳性の発達、認知発達論について考える①（金綱）</p> <p>第3回：道徳教育における道徳性の発達、認知発達論について考える②（金綱）</p> <p>第4回：道徳教育における道徳性の発達、認知発達論について考える③（金綱）</p> <p>9月15日</p> <p>第5回：道徳的価値葛藤について考える（コールバーグ理論、モラルジレンマ授業）（植田）</p> <p>第6回：現代的な課題と道徳的価値葛藤教材（モラルジレンマ教材）や開発教材について（清水）</p> <p>第7回：具体的な道徳的価値葛藤教材（モラルジレンマ教材）や開発教材による実践（清水）</p> <p>第8回：現代的な課題についての道徳教育と倫理的な問題（植田）</p> <p>【授業及び学習の方法】：原則対面で行う。オンラインも希望があれば可能であり、その際はハイブリッドで行う。</p> <p>【事前・事後学習のアドバイス】</p>			

事前学習 毎回の授業前に指定した図書の箇所を事前に読んでおく（2時間×8＝16時間）	
事後学習 毎回、学んだ内容を整理し、ミニレポートや課題についてまとめる（2時間×7＝14時間）	
《教科書・参考書等》 （参） 七條正典・植田和也他編「道德教育に求められるリーダーシップ」学習指導要領解説特別の教科道德 荒木紀幸編「モラルジレンマ教材とする白熱討論の道德授業」明治図書 荒木紀幸編『小学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書,2017年	
《オフィスアワー》 授業後に随時、時間の相談を受ける。相談時間は、下記メールで調整を行い、出来る限り院生の都合に合わせる。 植田 ueta.kazuya@kagawa-u.ac.jp	
《履修上の注意・担当教員からのメッセージ》 道德科に関しての「何でも質問タイム」も確保したいので、事前に質問がある場合は考えておく。	
参照ホームページ	
メールアドレス	植田 和也：ueta.kazuya@kagawa-u.ac.jp 金網 知征：kanetsuna.tomoyuki@kagawa-u.ac.jp 清水顕人 shimizu.akhito@kagawa-u.ac.jp
教員の実務経験との関連	